

経済危機の渦中にあるスリランカ 子ども達の教育をご支援ください



▲写真：スリランカ現地でのプログラムの様子

スリランカの経済危機とその背景

現在、スリランカは前例のない経済危機に直面しており、その影響は深刻です。最新の発表によると、外貨準備の不足と債務増加の結果、経済は崩壊。さらに新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の影響が状況に拍車をかけています。6月下旬の時点で燃料が枯渇し、全国の電力網、交通アクセス、家事や生活に必要なエネルギー供給が停止するとみられています。スリランカが抱える債務のため、燃料の輸送は大幅に遅れる見込みです。加えて、米、砂糖、穀物などの輸入が減少し、前年の農作物の収穫ができなかったことから、当局は2022年8月までに食糧不足に陥ると予想しています。同様に、医薬品を含む必需品も不足しており、日用品、スタッフの不足のために病院が閉鎖の危機に追い込まれています。

今週時点で、スリランカの学校はすべて休校になりました。COVID-19の中、ルーム・トゥ・リードがこの2年間実施してきたように、ルーム・トゥ・リード・スリランカの識字教育プログラムチームはプログラムをオンライン方式に移行し、子どもたちが継続して学習できるよう、ラジオやテレビで広く配信できる新しいプログラムの収録を続けています。

特に少女たちは、学校の閉鎖や停電にともない、様々な危険にさらされています。女子教育プログラムに在籍する多くの少女たちから、「母親が裕福な国で家事労働をするためにスリランカを離れ、家庭と家族の世話をするために自分たちを残して出て行った」と報告がありました。彼女達はこれまで経験したことのないような形で孤立しているのです。私たちのソーシャルモビライザー（コミュニティメンター）は、このような困難な状況を乗り切るために必要なサポートを少女たちに提供し、中退を防ぐため、これまで以上に懸命に取り組んでいます。

この危機は、「失われた世代」を生み出し、今後数十年にわたってスリランカ的发展を押しとどめることでしょう。経済危機に瀕し、失業率が悪化する中、少女をはじめとする子どもたちが搾取に直面する危険にみまわれています。インフレと増税のために家族は選択肢を失い、子どもたちの教育と将来の見通しを立てることができずにいます。

スリランカにおけるルーム・トゥ・リード

ルーム・トゥ・リードは、2004年のスマトラ沖大地震によるスリランカ沖への津波、数年にわたる同国での内戦、COVID-19の大流行など、激動の時代にあるスリランカのコミュニティを17年間にわたって支援を行ってきました。私たちの使命は、子どもたちと地域社会の教育成果が妨げられることなく、プログラムを提供することです。

今この瞬間も、私達は同じ使命を持って活動に取り組んでいます。コミュニティの求めに応じ、子どもたちが学校から中退するリスクを軽減するために、状況に適応し、柔軟な対応を進めています。

ルーム・トゥ・リードは2004年の壊滅的な津波被害を受けて、予定より1年前倒しし、2005年からスリランカで識字教育プログラムを開始しました。その後、スリランカの9つの州のうち7つの州で子どもたちにプログラムを提供するまでに拡大しました。また、ジェンダーギャップに対応するため、2006年には一部の州で女子教育プログラムを開始しました。

2009年、スリランカの内戦が終結すると、ルーム・トゥ・リードは、多くの破壊が起こった北部州のマナール地区でプログラムを実施しました。同地域のインフラ、教育資源へのアクセス、教育の機会を改善するために、教育システム全体の関係者と協力を密にしました。それ以来、全国で100万人以上の子どもや若者が教育やライフスキルにアクセスできるようになり、大きな成功を収めています。

2005年以降、ルーム・トゥ・リードは、スリランカにおいて下記の成果をあげてまいりました：

- ・ 150万人のスリランカの子ども達に対して低学年向けの識字教育プログラムを提供
- ・ 9,091人の少女たちに女子教育プログラムを提供
- ・ 232タイトルの児童書の出版
- ・ 2,379校の小学校の支援
- ・ 751人以上の少女たちの高等教育修了の支援
- ・ コロナ禍で、730万人の子ども達へテレビ・ラジオを通じて教育プログラムを提供
- ・ その他、年齢に応じた本の寄贈など

現在、スリランカでは経済危機が続く中、質の高い教育へのアクセスが深刻なリスクにさらされています。ルーム・トゥ・リードが直接関わっている子ども達だけでなく、地域全体の子ども達が学校を中退し、二度と学校に戻れなくなる深刻な事態の中にいます。

ルーム・トゥ・リードは、スリランカの子どもたちがどこにいても、その求めに応えられるような取り組みを行ってまいります。

求められていることへの対応を

「この状況は、ある意味ではパンデミックの初期に似ているかもしれませんが、しかし、この事態はすべての人にとって一子どもたちと、特に少女たちにとっては一さらに恐ろしいものです。次に何が起こるか誰も分からないという事実には、子どもたちは想像もつかない恐怖感と強いストレスにさらされています」

—シェヴァンティ・ジャヤスリヤ氏（ルーム・トゥ・リード スリランカ カントリーディレクター）

2005年以来、ルーム・トゥ・リードは、スリランカのコミュニティや国レベルの教育システム全体で、強力な連携関係を育んできました。私たちは、校長や地区の教育担当者とともに、関係者や、危機の影響を最も受けやすい子どもたちの教育を支援するために、たゆまぬ努力を続けています。

識字教育プログラムでは家庭用学習キットを、女子教育プログラムではワークシートの作成を予定しています。しかし、印刷費や輸送費の高騰のため、これらの支援を継続的に提供できるのか、課題は山積しています。ルーム・トゥ・リードのデジタル教材は、教師・親・子どもたちに多くの学びを提供しますが、通信費にかかる税金は教材を広くより多くの人々へ提供するうえで、妨げになります。

スリランカにおけるルーム・トゥ・リードの長期的なビジョンは、私達の教育プログラムを同国全域へ普及・推進し、スリランカの教育セクターの統合に貢献することです。このビジョンの実現のため、ルーム・トゥ・リードの教員養成アプローチの大学機関との連携、子どもの本の出版に関する国家基準の設定、教育省（MOE）との共同出版、学校の指導やカウンセリングに重点を置いた女子教育のカリキュラム開発支援のMOEへの提供などを推進しています。

識字教育プログラム

ルーム・トゥ・リードのエビデンス（実施結果）に基づく図書室の構築要素を政府機関とすり合わせ、教育省の読書開発プログラムの規模拡大を支援し、政府主導の教員研修を改善する専門知識を提供することで、できるだけ多くのスリランカの子どもたちに教育を提供することを目指しています。

女子教育プログラム

ルーム・トゥ・リードは、女子教育プログラムのカリキュラム開発を通じて、スリランカの中等教育の改善に貢献します。

ルーム・トゥ・リードと共にある、世界中の家族、子どもたち、コミュニティを代表して、私たちのプログラムへご支援をいただき、心から感謝いたします。すべての子どもたちの識字率と男女平等がさらに向上し、スリランカの子どもたちが置き去りにされることなく、学び続けることができます。



▲写真：自宅でのリモートラーニングの様子

